

中等教育研究開発室年報 第35号（2022年3月31日発行）別冊電子版
2021年度 授業実践事例

社会科・地歴科・公民科 中学校第1学年

鎌倉時代をわかる

授業者 橋本 浩

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

中学校 社会科歴史的分野 学習指導案

指導者 橋本 浩

- 日時** 令和3年11月27日(土) 第2限 10:35～11:25
- 場所** 第1社会科教室
- 学年・組** 中学校1年B組40人(男子20人 女子20人)
- 単元** 鎌倉時代
『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き』(帝国書院)
- 目標**
1. 鎌倉時代の成立, 発展, 滅亡を通して, 時代像を得る。
 2. 広く歴史を時代区分することで, その特徴や変化を捉える考え方を得る。
 3. 歴史を解釈的に理解し, 能動的に捉えようとする態度を養う。

指導計画 (全8時間)

第1次 鎌倉時代の始まり

(途中は略す)

第8次 鎌倉時代をわかる (本時)

授業について

本授業の対象とする時代は鎌倉時代とし, その特徴を理解して歴史的な思考を促すことを目的とした。この時代を対象とする学習は, はじめから武士政権の成立ありきではなく, 鎌倉時代の特徴を考えるとという課題を掲げた。時期区分されたある時代を, どのように捉えるべきかを考えるためである。

しかしながら, 鎌倉時代を考えるためには, 鎌倉幕府を考えることが重要である。そして, この幕府はなぜ成立したか, なぜ一定期間存続したか, なぜ崩壊したか, それらを考察して捉えることで, 「時代をわかる」手がかりを得たい。

ある時代を理解するとは, その構造を知り, 前後関係に納得することと思われる。多面的・多角的な視点からの考察も必要である。鎌倉時代を理解した方法を, 各時代に当てはめて, 比較したり理解したりする力としたい。

つまりこの学習は, 次の時代室町時代を考察する上でも, 有効な手段となる。その歴史段階の理解のために, 鎌倉時代との共通性を確認しつつも個別の歴史的事象の差異を見つけだし, なぜそのような違いが生じるのか考えることが, 歴史的な思考を促す。

例えば次の時代, 武士と貨幣経済の関係はどうなるか。武士は都市に住み流通経済を統制していこうとする。幕府は海外貿易にも手を出して, 富の獲得に進んで邁進するようになる。それらの展開の上に, 戦国時代以降のさかんな経済活動が見通せる。

「時代をわかる」というのは, その時代が一まとまりであり, それが始まってしばらく続いて, やがて終わるということである。なぜその時代が始まるのか, そしてしばらく維持されるのか, そして崩壊するのか, は一定の時期を包括的に認識する基本的な理解方法であろう。

しかしそれだけでは, その時代の状況が理解できても, なぜ次の時代への変化がもたらされたかが, 見えにくくなる。理解することで見えなくなることも多い。本来, 時代の転換がなぜ生じたかを考えることは, 強く歴史的な思考をもたらす。それを仮に歴史の変動要因として捉えておきたい。なぜ歴史は展開していくのか, 政治的, 経済的, 社会的な矛盾を指摘することのみの説明的理解に陥らず, 展開する動因を見つめることは, 歴史を動きあるものとして積極的に学習することに役立つと思う。

題 目 鎌倉時代をわかる

本時の目標

1. 鎌倉時代を、鎌倉幕府の成立，発展，滅亡を通して，時代像を得る。
2. 時代を時期区分することで，その特徴や変化を捉える考え方を得る。
3. 歴史を解釈的に理解し，能動的に捉えようとする態度を養う。

本時の評価規準（観点）

1. 鎌倉時代の基礎的な歴史の流れを理解している。（知識・技能）
2. 鎌倉時代を，一つの時代が展開する形でまとめることができる。（思考・判断・表現）
3. 時代の展開のあり方を，他の時代で当てはめてみようとする。（主体的に学習に取り組む態度）

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
時代をわかる 鎌倉時代とは何か <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">予想する</div> 鎌倉幕府の歩み 成立（時代の開始） 展開（時代の継続） 滅亡（時代の終了） 支えていたもの <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">話しあう</div> 次の時代を考える 時代を進めるもの <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">追求する</div>	鎌倉時代をまとめてみよう。 なぜ，鎌倉時代は始まったのか。 なぜ，鎌倉時代は続いたのだろうか。 なぜ，鎌倉時代は終わったのだろうか。 鎌倉時代を動かしたのは何だろうか。 次の室町時代は，どんな時代だろうか。 今度は何が室町時代を動かしているだろうか。	「鎌倉時代」を捉えさせる。 あえて成立，展開，滅亡とする。 時代を貫く主体を見出す。 普遍的な要因を探らせる。 時代を捉える見方を利用させる。 新しい動因を考えさせる。
備考		

歴史プリント

各授業のとき作成した問いと答えを記してみよう。

4

鎌倉幕府の成立

5

執権政治

6

鎌倉時代の社会

7

モンゴルの襲来

8

農業と商業の発達

9

鎌倉幕府の滅亡

4～9の問いをまとめて、大きな問いをつくってみよう。そして、大きな問いの答えを書いてみよう。

鎌倉時代を動かしたなぞの **X** を考えてみよう。

--

ほかの時代（時期・期間）を、鎌倉時代の理解のしかたで説明してみよう。

取り上げた時代、時期、期間（ ）

大きな問い

--

その答え

--

中1 _____ 組 _____ 番 名前 _____

実践上の留意点

・授業説明

生徒自身が活動を通して、より良い時代像を結ぶためにはどうしたらよいか。それぞれの授業での疑問と答えを振り返り、それらを新たに整序する作業を通して、より大きな問いに答えるという形式をとってまとめさせた。それらを生徒相互に表現することで精緻化を図り、自分の時代像をより実感的につくることを試みた。

探究することは、その前提として「なぜ……」という問いがあろう。探究する中で次々と疑問が生まれ、さらに知識が要求される。それが一定程度進めば、それらの意味をまとめたり解釈するところが現れる。小さな疑問であれば、それは知識の獲得によって容易に解答を得ることができるだろう。しかし大きな問いであれば、なかなかその答えは導き出されない。すなわち問いにも構造があり、その獲得には小さな問いの積み重ねが要求される。

本授業では、その大きな問いを「時代をわかる」に設定する。

問いをつくり出してみようと指示して、授業ごとに問いと答えをつくらせた。例えば、

なぜ鎌倉時代は始まったのか

授業での問い なぜ頼朝は幕府を開くことができたのか

なぜ鎌倉時代は続いたのか

授業での問い なぜ北条氏の政治は長続したのか

なぜ鎌倉時代は終わったのか

授業での問い なぜ鎌倉幕府は武士たちの支持を失ったのか

鎌倉時代後半、なぜ武士は困窮していったのか

授業での問い なぜ武士は以前より困窮した生活になったのだろうか

なぜ貨幣経済は進展したのか

授業での問い なぜ貨幣は使われるようになっていったのだろうか

なぜ生産力は向上していったのか

授業での問い なぜ農民は生産物を市に出せるようになったのか

なぜ社会は変わっていったか

授業での問い なぜ武士たちのいる社会は不安定になっていったのか

問いを構造化するにあたって考慮すべきは、次の点である。

鎌倉時代を動かしたのは、だれか → 武士（時代変化を捉えるため、主体を置いた）

武士が大きく影響を受けたのは何か → 貨幣経済（新しい変動要因が持ち込まれた）

次の時代、武士と貨幣経済の関係はどうか → 展望を得る

・研究協議

どのような方法を用いれば探究型の学習方法となるのが、議論された。授業者からは、生徒自身が問いを作ることに注目して学習を展開する方法が提案された。

